

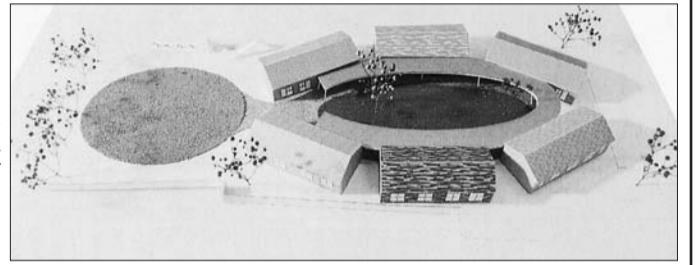
四川省へ復興の学び舎を

「地震被災地に幼稚園建設」プロジェクト

迫慶一郎さん(高41回)奮闘



迫慶一郎さん



「春風日中友好幼稚園」の完成予想図

平成20年5月、中国・四川省で発生した大地震を機に、被災した同省錦竹市の小学校再建プロジェクトへの支援を呼び掛けた建築家迫慶一郎さん(高41)が、その思いと過程を記した。

☆ 大地震で校舎が無残に倒壊した被災地を事務所のテレビで見たとき、自らの職業を生かして四川の復興に貢献できないか、と考え抜いた結果、「日本の耐震技術を用いて地震に強い校舎を建設し、現地の子どもたちに無償で贈ろう」と決断しました。

中国での仕事が9年目の私は、建設関連の日系企業や他分野の日系企業の支援があれば可能だと信じ、プロジェクトへの参加を呼び掛けました。

耐震性高い学び舎を基本となる建築の躯体は、敢えて鉄骨造で薄板軽量形鋼造を採用して耐震性の高い校舎をつくりたいと考えました。この工法だと「省資源」「短工期」「高性能」のメリットもあるからです。

筑高同窓会で決意新たにその後、上京した私は「四川省の校舎再建支援」を呼びかけるため、筑紫丘高校同窓会総会に初めて出席し、多くの先輩方を前にして、母校の歴史を改めて感じました。寄付をお願いする私のスピーチの際には、級友との歓談中だったにも関わらず、多くの方々が耳を傾けてくれたのが分かりました。会場にブースを設けて計画を説明する傍ら、会場のテーブルを回りながら先輩から後輩まで、

たくさんの方々からご寄付を頂きました。その総額は26万7233円にも上がりました。また「頑張れよ」という温かい励ましのお言葉も、何度となく掛けて頂き、さらに「このプロジェクトを竣工させる」という決意を固くしました。

震災後にスタートした「小学校寄贈プロジェクト」でしたが、昨年6月末に再建の對象が小学校から幼稚園に変更になりました。これまでも数多くの困難に直面しましたが、この変更は最大級のものでした。

幼稚園への変更は苦渋の決断。一昨年秋の金融危機に端を発した世界同時不況が、このプロジェクトを直撃したためでした。中国政府の「四川復

興プロジェクト監査チーム」から、私たちのプロジェクトの進捗よく状況が問題視されました。小学校は大地震復興プロジェクトの中でも重要項目で、今年3月末までに再建を終了するよう中央政府の強い方針が出されており、錦竹市政府から「再建対象を幼稚園に変更して欲しい」との申し出がありました。

これまで多くの方々から支援を受けた経緯から「とても受け入れられない」と拒んでいましたが、不便な仮設校舎で新校舎を待ち望んでいる児童たちの事を考え、申し出を受け入れる苦渋の決断をしました。現在は、幼稚園を今年夏までに完成させるべく進めています。小学校の方は他の支援先自治体により再建される

ことになりました。新たな寄付のお願い。幼稚園の再建は規模が縮小され、必要事業費も小さくなり、一旦は費用の調達にメドが立ちそうでした。しかし、義務教育施設でないとの理由で、前向きに検討して頂いていた日本政府からの資金援助を受けることができず、約2千万円の資金が不足しているのが現状です。

このプロジェクトに賛同してください、ご寄付を頂けるようでしたら大変幸いに存じます。ご寄付頂いた個人または企業のお名前は、竣工時に建立する予定の記念碑に刻ませて頂きます。詳しい内容は「SAKO建築設計工社」03(5548)4610担当・坂井まで。

昭和11年4月に入学した10回生は、この年、県視学官からきた二代目の井口吉校長のもとに在学。井口校長は昭和16年、福岡中学校長に転出されるまで筑中の黄金期を築かれた。それだけに「筑寿」はセピア色となった佳き日々の回想録や身辺雑話的なもので占められている。

師弟の情を深め「筑寿は宝物に触れる思いだ」(斎藤千利先生)と喜んでいただいた。各地のマラソン大会に出ている木村憲輔さんは、指宿のトライアスロンにも参加し、最年齢でゴールする文字通りの鉄人ぶり。宇美町の町議選では移動もマラソンという姿で当選。森山繁さんの世界各國を巡り歩いた大旅行記。能筆な矢幡寛さんの「ヤカンの

昭和11年4月に入学した10回生は、この年、県視学官からきた二代目の井口吉校長のもとに在学。井口校長は昭和16年、福岡中学校長に転出されるまで筑中の黄金期を築かれた。それだけに「筑寿」はセピア色となった佳き日々の回想録や身辺雑話的なもので占められている。

師弟の情を深め「筑寿は宝物に触れる思いだ」(斎藤千利先生)と喜んでいただいた。各地のマラソン大会に出ている木村憲輔さんは、指宿のトライアスロンにも参加し、最年齢でゴールする文字通りの鉄人ぶり。宇美町の町議選では移動もマラソンという姿で当選。森山繁さんの世界各國を巡り歩いた大旅行記。能筆な矢幡寛さんの「ヤカンの

昭和11年4月に入学した10回生は、この年、県視学官からきた二代目の井口吉校長のもとに在学。井口校長は昭和16年、福岡中学校長に転出されるまで筑中の黄金期を築かれた。それだけに「筑寿」はセピア色となった佳き日々の回想録や身辺雑話的なもので占められている。

師弟の情を深め「筑寿は宝物に触れる思いだ」(斎藤千利先生)と喜んでいただいた。各地のマラソン大会に出ている木村憲輔さんは、指宿のトライアスロンにも参加し、最年齢でゴールする文字通りの鉄人ぶり。宇美町の町議選では移動もマラソンという姿で当選。森山繁さんの世界各國を巡り歩いた大旅行記。能筆な矢幡寛さんの「ヤカンの

中10回の情報紙「筑寿」幕閉じる

昭和16年卒の中学10回生の同窓会報「筑寿」(B5判、年2回発行、10・14頁)が40号(平成18年12月)で幕を閉じた。

「筑寿」は後輩の昭和20年卒・15回生の『十五夜風声』に触発されて、昭和62年1月に創刊。爾来19年余を閲し、40号を数えた。

聴衆満員で盛会 創部50周年記念の筑吹会定期演奏会

筑紫丘高校吹奏楽団OB・OG会「筑吹会」は昨年8月吹奏楽部50周年記念第40回定期演奏会を開き、1400名余の聴衆に向け、筑高サウンドを鳴り響かせました。

今回の演奏会は、ひとえに同窓会の皆様方の物心両面にわたるご支援・ご協力の賜物と筑吹会一同、心より感謝申し上げます。(高35 大石)

豪州で家族と生活

春日原と大橋の間が生活圏であった高校時代には、想像すらできなかった生活で。す。す。

近況

☆中武 雄一(高33回) 少し前までは馬車馬のように働いていた。タロット占いをされたら、全てが「馬のカード」だったのに。最近では笑えた。最近では立ち止まり、自分をめぐる事。例えば親族友人の健康や寂れゆく田舎の行く末を考へる事が多い。

また「仮に日本が戦争しても兵士になる年齢ではなくなったな」と思う。今後は、後輩等これから戦争に送り出されないよう、社会参加したい。校歌の「日本をいざ創造らん」の精神で。

☆梶原 慎智(高33回) 就職し20年余りが過ぎようとした頃、豪州メルボルンへの勤務を命じられ、08年春より家族と共にこの地で暮らしております。

ここ豪州は、ヨーロッパ系はもちろん、アジア、インド、アフリカ系の民族も多く住む多民族社会です。言語はもとより、文化や考え方の違い戸惑いつつも、元気で暮らしています。

春日原と大橋の間が生活圏であった高校時代には、想像すらできなかった生活で。す。す。

☆福澄 孝博(高33回) 昨年7月、日本の陸上で46年ぶりの皆既日食で話題になったトカラ列島の天文台にいます。生憎の悪天候でしたが、島は真つ暗な闇に包まれ神秘的なひと時でした。今はこの日食を将来にどう生かしていくかに心を配っています。特に、子どもたちが肌で感じた自然の驚異・感動を人生の中で宝物にしていくてくれたらと願っています。

さて、手付かずの自然が広がるトカラ。見どころ満載!あなたも来ませんか?

☆重徳 眞子(高33回) 高校卒業と同時に福岡を離れて30年近く経ちました。大都会?の荒波に挑みながら生活しておりますが、筑紫丘の3年間で学んだこと、育んだ友情は何物にも替えがたい人生の宝物だと感じる今日このごろです。

野球は平和台のライオンズで育ちましたが、縁あって横浜ベイスターズに職を得、ソフトバンクホークスとの日本シリーズ対決を夢見て仕事に励む重徳でした!

自然満載のトカラ 自然の驚異・感動を人生の中で宝物にしていくてくれたらと願っています。

さて、手付かずの自然が広がるトカラ。見どころ満載!あなたも来ませんか?

丘育ちハマ暮らし ました。野球は平和台のライオンズで育ちましたが、縁あって横浜ベイスターズに職を得、ソフトバンクホークスとの日本シリーズ対決を夢見て仕事に励む重徳でした!

宴座

ビートルズ・リマスター盤に触発されて、分割払いのエレキを取り出す。弦を張り、アンプにつなぎ、楽譜を開く。その一つ一つが、高校時代への時間旅行。気分は「アイフィール・フライン」。ありや指が動かない。

西鉄電車が地べたを走っていた三十数年前、大橋駅そばのロック喫茶は、数千枚のレコードに囲まれて、ジュース一杯で何時間も粘れるパラダイスだった。「坊や、××のソロはこのドライブ感が凄かやる」。腹に響く大音量と芸工大の常連兄さんの講釈が、放課後の私を待っていた。勉強も恋もうまくいかず、自分の存在意義さえ見失ってしまう思春期の魔窟。脱出口の鍵は、すべてを忘れさせる何か。姉のクラシックギターで挑んだ「イエスタデイ」のGコードが、その重い扉を開けてくれた。毎週末、夜通し特訓。初めて弾けた朝は「青春の夜明け」でもあった。愛器を傷だらけにされた姉の大目玉も忘れられないけど。

仕事や健康や家族の将来。悩みグセがさっぱり治らない50歳だが、ひとたび鳴らせばスッキリ心の特効薬。とうの昔に捨ててしまった夢や希望も、埃を払って蘇る。よっしゃ今夜は「ゲット・バック」で行くぜ。ずんちゃずんちゃじゃーん。「うるさい、近所迷惑」。妻と息子の目玉が飛び。うーん、ギター弾きはやっぱり孤独だ。(高30 石橋一造)